

ひがんでん  
彼岸田遺跡現地公開資料

現地公開日時	平成 23 年 8 月 25 日
遺跡名	彼岸田
所在地	奥州市前沢区白山字彼岸田地内
事業名	経営体育成基盤事業
委託者	県南広域振興局農政部農村整備室
発掘調査期間	平成 23 年 6 月 6 日～8 月 15 日（当初）
調査対象面積	3, 300 m <sup>2</sup> （当初）
遺跡略号	HGD-11
調査担当者	文化財専門員 西澤正晴 期限付調査員 高橋麻依子

## 1. 基本土層

本遺跡は JR 東北本線前沢駅より北東約 2 km に位置し、胆沢扇状地の下位段丘上（水沢段丘）に立地する。遺跡の標高はおおむね 26m 前後であり、周囲の水田よりも一段高い場所である。調査前の現況は水田・畑地等である。土層の堆積は概ね以下のとおりであるが、今年度の調査区は I 層直下が削平された IV 層となる。

I 層	灰黄褐色土	現在の表土（耕作土）
II 層	暗褐色土	旧耕作土
III 層	灰黄褐色土	縁辺部にある盛土（古代の遺物が再堆積）
IV 層	黒褐色土	縄文時代以降の堆積土
V 層	明黄褐色土層	地山 遺構検出面

## 2. 検出した主な遺構

竪穴住居跡	・・・1 棟（平安時代）
掘立柱建物跡	・・・10 棟以上（古代～近世を含む）
柱穴	・・・236 個（建物分を含む）
土坑	・・・10 基
溝跡	・・・10 条
不明遺構	・・・1 基

## 3. 出土遺物

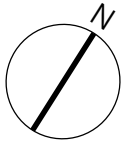
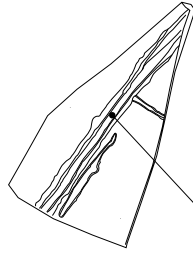
土師器・須恵器・陶器片（渥美・常滑）・手づくねかわらけ・羽口・鉄さい

## 4. 調査成果

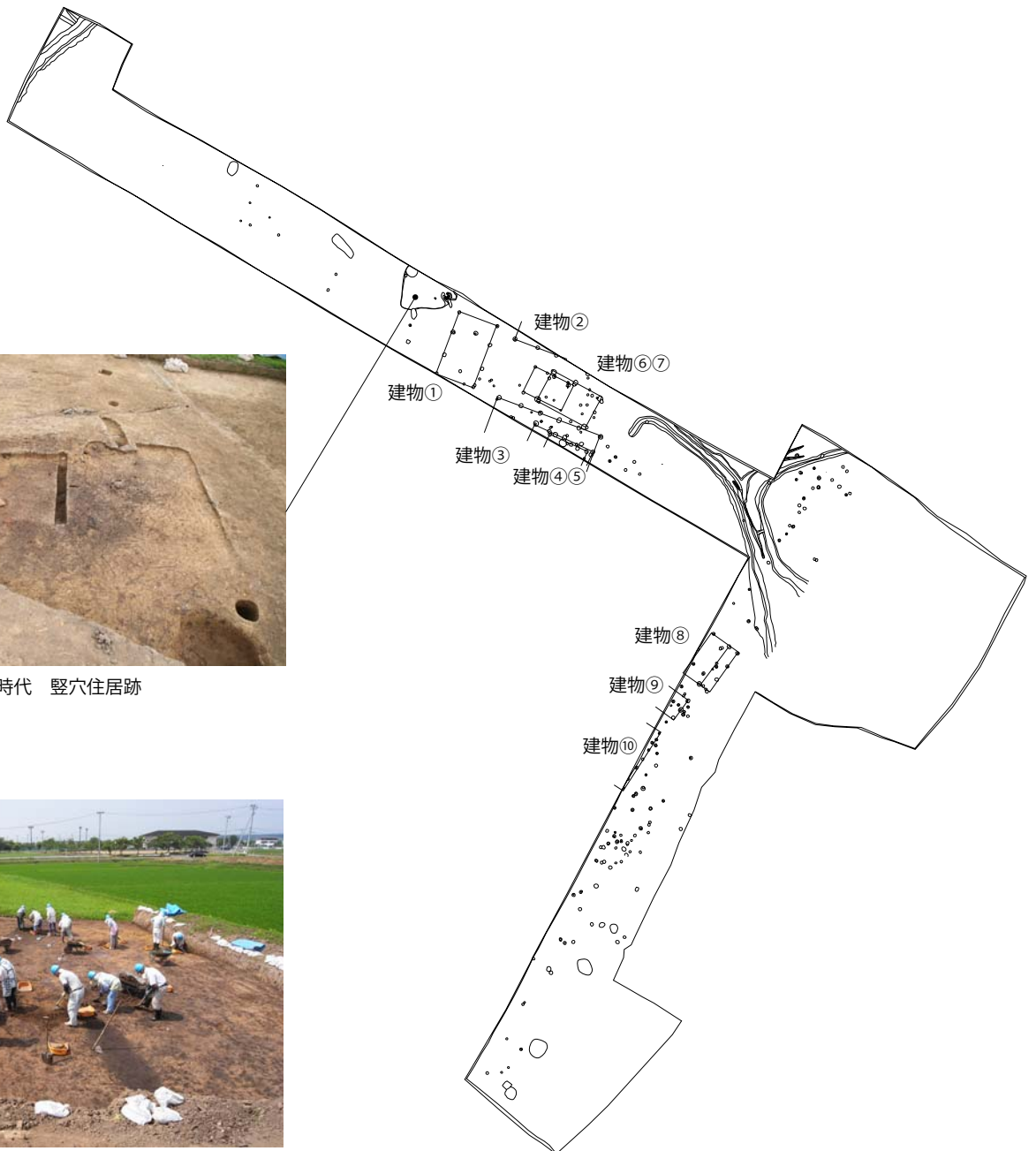
彼岸田遺跡の最初の調査となる。遺跡は、およそ南北に細長い台地上にあり、調査区はその東西の縁辺部と中央をトレンチ状に設定している。調査地を含めて、遺跡は大きく地形改変が行われており、検出された遺構の残りは悪いといえる。調査の結果、各時代の遺構が複層していることが判明したが、主体は平安時代の集落となろう（出土遺物からも）。竪穴建物跡は 1 棟のみであるが、調査区外の比較的標高が高い地点に広がっている可能性がある。そのほか、各時期の掘立柱建物跡が集中しているが、時期の特定は今のところできていない（土師器が含まれる柱穴もある）。出土遺物には、平安時代の土器が主体であるが、そのほか常滑や渥美産の陶器や手づくねかわらけなども少数ながら出土している。また、近世の陶磁器も少数ながら出土している。したがって、検出された建物跡には、これらの時期のものが含まれている可能性がある。

上記のように、今回の調査で得られる資料は少ないながらも、本遺跡は、おもに平安期（10 世紀頃、12 世紀頃）の集落であり、とくに 12 世紀代の資料が得られたことはこの地域にも平泉文化期の影響が強く及んでいたことがよくわかる。今後は、この影響がどのようなものなのか検討していかなければならない。

i遺構配置図



溝跡



平安時代 竪穴住居跡



作業状況